

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年5月15日

【四半期会計期間】 第77期第1四半期(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

【会社名】 新報国製鉄株式会社

【英訳名】 SHINHOKOKU STEEL CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 川口 一 男

【本店の所在の場所】 埼玉県川越市新宿町5丁目13番地1

【電話番号】 049 242 1950

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営企画室長 森 善 男

【最寄りの連絡場所】 埼玉県川越市新宿町5丁目13番地1

【電話番号】 049 242 1950

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営企画室長 森 善 男

【縦覧に供する場所】 株式会社ジャスダック証券取引所
(東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

| 回次 | | 第77期 第1四半期連結 累計(会計)期間 | 第76期 |
|--------------------------------|------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 会計期間 | | 自 平成21年 1月1日 至 平成21年 3月31日 | 自 平成20年 1月1日 至 平成20年 12月31日 |
| 売上高 | (千円) | 474,652 | 7,095,063 |
| 経常損益 | (千円) | 386,035 | 531,151 |
| 四半期(当期)純損益 | (千円) | 366,296 | 14,381 |
| 純資産額 | (千円) | 1,475,362 | 1,897,069 |
| 総資産額 | (千円) | 4,453,236 | 4,882,320 |
| 1株当たり純資産額 | (円) | 435.53 | 557.90 |
| 1株当たり四半期 (当期)純損益 | (円) | 115.60 | 4.53 |
| 潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 | (円) | | |
| 自己資本比率 | (%) | 31.0 | 36.2 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | (千円) | 461,073 | 533,132 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | (千円) | 65,485 | 272,965 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | (千円) | 594,976 | 200,607 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 | (千円) | 196,208 | 127,790 |
| 従業員数 | (名) | 155 | 156 |

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3 【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社における状況

平成21年3月31日現在

| | |
|---------|-------------|
| 従業員数(名) | 155 (17) |
|---------|-------------|

- (注) 1 従業員数は、就業人員であります。
2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の当第1四半期連結会計期間の平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成21年3月31日現在

| | |
|---------|-------------|
| 従業員数(名) | 103 (17) |
|---------|-------------|

- (注) 1 従業員数は、就業人員であります。
2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の当第1四半期連結会計期間の平均雇用人員であります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| 事業の種類別セグメントの名称 | 生産高(千円) |
|----------------|---------|
| 鑄造事業 | 267,073 |
| エンジニアリング事業 | 429,377 |
| 金属加工事業 | 54,112 |
| 合計 | 750,562 |

(注) 1 金額は、製造原価によっております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第1四半期連結会計期間における受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| 事業の種類別セグメントの名称 | 受注高(千円) | 受注残高(千円) |
|----------------|---------|----------|
| 鑄造事業 | 232,845 | 101,473 |
| エンジニアリング事業 | 191,953 | 97,651 |
| 金属加工事業 | 54,098 | 22,514 |
| 合計 | 478,896 | 221,637 |

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| 事業の種類別セグメントの名称 | 販売高(千円) |
|----------------|---------|
| 鑄造事業 | 185,776 |
| エンジニアリング事業 | 239,832 |
| 金属加工事業 | 49,044 |
| 合計 | 474,652 |

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

| 相手先 | 当第1四半期連結会計期間 | |
|-----------|--------------|-------|
| | 販売高(千円) | 割合(%) |
| 三徳工業(株) | 85,199 | 17.9 |
| (株)ニコン | 63,511 | 13.4 |
| 住友金属工業(株) | 56,664 | 11.9 |

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等を行われておりません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結会計期間におけるわが国の経済動向は、世界的な景気の後退により、輸出の減少、失業率の上昇など極めて厳しい状況で推移しました。

当社の主力顧客であります半導体製造装置、液晶パネル製造装置及びシリコンウエファ業界の景気動向も日本経済の動向と軌を一にし、受注量の減退を余儀なくされました。

その結果、設備投資の抑制により半導体製造装置用部品、液晶パネル製造装置用部品及びポリッシング定盤等の受注が大幅に減少し、売上高は475百万円、営業損失は397百万円、経常損失は386百万円、四半期純損失は366百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりです。

鑄造事業

半導体製造装置用部品、液晶パネル製造装置用部品及びポリッシング定盤等の受注減少により、売上高は186百万円、営業損失は218百万円となりました。

エンジニアリング事業

半導体製造装置用部品、液晶パネル製造装置用部品及びポリッシング定盤等の受注減少により、売上高は240百万円、営業損失は154百万円となりました。

金属加工事業

低熱膨張合金鍛造ブロック等の受注減少により、売上高は49百万円、営業損失は25百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

総資産は、前連結会計年度末より429百万円減少し4,453百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金の減少額435百万円等によるものです。

負債は、前連結会計年度末より7百万円減少し2,978百万円となりました。これは主に長期借入金の増加額586百万円、支払手形及び買掛金の減少額423百万円等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末より422百万円減少し1,475百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少額385百万円等によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に対し68百万円増加し196百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは 461百万円となりました。これは主に仕入債務の減少423百万円及び税金等調整前四半期純損失388百万円等の減少要因が、売上債権の減少435百万円等の増加要因を上回ったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは 65百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出64百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは595百万円となりました。これは主に長期借入による収入780百万円及び短期借入金の純減少額149百万円等によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間の研究開発費の総額は22百万円であります。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 6,000,000 |
| 計 | 6,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成21年3月31日) | 提出日現在 発行数(株) (平成21年5月15日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|---------------------------------|------------------------------------|------------|
| 普通株式 | 3,510,000 | 3,510,000 | ジャスダック証券 取引所 | 単元株式数 200株 |
| 計 | 3,510,000 | 3,510,000 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|--------------------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 平成21年1月1日～ 平成21年3月31日 | | 3,510,000 | | 175,500 | | 133,432 |

(5) 【大株主の状況】

当第1四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成20年12月31日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成20年12月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-----------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 341,200 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 3,150,600 | 15,753 | |
| 単元未満株式(注) | 普通株式 18,200 | | |
| 発行済株式総数 | 3,510,000 | | |
| 総株主の議決権 | | 15,753 | |

(注) 「単元未満株式」には、当社所有自己株式136株が含まれています。

【自己株式等】

平成20年12月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|--------------------|-------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 新報国製鉄株 | 埼玉県川越市新宿町 5 - 13 - 1 | 341,200 | | 341,200 | 9.72 |
| 計 | | 341,200 | | 341,200 | 9.72 |

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

| 月別 | 平成21年 1月 | 2月 | 3月 |
|-------|-------------|-----|-----|
| 最高(円) | 260 | 266 | 190 |
| 最低(円) | 224 | 133 | 127 |

(注) 株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までにおいて役員の変動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当第1四半期連結累計期間(平成21年1月1日から平成21年3月31日まで)については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日内閣府令第50号)附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結累計期間(平成21年1月1日から平成21年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 当第1四半期連結会計期間末 (平成21年3月31日) | | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年12月31日) | |
|-------------|-------------------------------|-----------|---|-----------|
| 資産の部 | | | | |
| 流動資産 | | | | |
| 現金及び預金 | 2 | 704,408 | 2 | 635,990 |
| 受取手形及び売掛金 | | 446,206 | | 881,450 |
| 製品 | | 663,354 | | 553,945 |
| 仕掛品 | | 747,123 | | 957,235 |
| 原材料 | | 252,794 | | 337,567 |
| その他 | | 203,991 | | 42,841 |
| 流動資産合計 | | 3,017,876 | | 3,409,029 |
| 固定資産 | | | | |
| 有形固定資産 | | | | |
| 建物及び構築物(純額) | 1, 2 | 489,838 | 1, 2 | 498,343 |
| 土地 | 2 | 524,385 | 2 | 524,385 |
| その他(純額) | 1 | 334,851 | 1 | 360,720 |
| 有形固定資産合計 | | 1,349,074 | | 1,383,448 |
| 無形固定資産 | | 7,420 | | 7,912 |
| 投資その他の資産 | | 78,866 | | 81,931 |
| 固定資産合計 | | 1,435,360 | | 1,473,291 |
| 資産合計 | | 4,453,236 | | 4,882,320 |
| 負債の部 | | | | |
| 流動負債 | | | | |
| 支払手形及び買掛金 | | 624,116 | | 1,046,760 |
| 短期借入金 | | 647,799 | | 636,705 |
| 1年内償還予定の社債 | | 200,000 | | 200,000 |
| 未払法人税等 | | 887 | | 99,593 |
| 賞与引当金 | | 44,200 | | 35,650 |
| 設備関係支払手形 | | 46,277 | | 76,443 |
| その他 | | 84,685 | | 159,066 |
| 流動負債合計 | | 1,647,964 | | 2,254,217 |
| 固定負債 | | | | |
| 長期借入金 | | 752,727 | | 166,977 |
| 退職給付引当金 | | 211,085 | | 205,915 |
| 役員退職慰労引当金 | | 253,948 | | 244,636 |
| その他 | | 112,150 | | 113,506 |
| 固定負債合計 | | 1,329,911 | | 731,034 |
| 負債合計 | | 2,977,874 | | 2,985,251 |

| | 当第1四半期連結会計期間末 (平成21年3月31日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年12月31日) |
|--------------|-------------------------------|---|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 175,500 | 175,500 |
| 資本剰余金 | 133,432 | 133,432 |
| 利益剰余金 | 1,174,003 | 1,559,312 |
| 自己株式 | 118,693 | 118,638 |
| 株主資本合計 | 1,364,242 | 1,749,606 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 15,635 | 18,182 |
| 評価・換算差額等合計 | 15,635 | 18,182 |
| 少数株主持分 | 95,485 | 129,281 |
| 純資産合計 | 1,475,362 | 1,897,069 |
| 負債純資産合計 | 4,453,236 | 4,882,320 |

(2)【四半期連結損益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 当第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日) |
|-----------------|---|
| 売上高 | 474,652 |
| 売上原価 | 712,359 |
| 売上総損失() | 237,707 |
| 販売費及び一般管理費 | 159,426 |
| 営業損失() | 397,133 |
| 営業外収益 | |
| 受取利息及び配当金 | 62 |
| 受取賃貸料 | 4,893 |
| 助成金収入 | 10,644 |
| 雑収入 | 5,350 |
| 営業外収益合計 | 20,949 |
| 営業外費用 | |
| 支払利息 | 5,971 |
| 雑支出 | 3,880 |
| 営業外費用合計 | 9,851 |
| 経常損失() | 386,035 |
| 特別損失 | |
| 固定資産除却損 | 1,995 |
| 特別損失合計 | 1,995 |
| 税金等調整前四半期純損失() | 388,031 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 338 |
| 法人税等調整額 | 8,791 |
| 法人税等合計 | 9,128 |
| 少数株主損失() | 30,862 |
| 四半期純損失() | 366,296 |

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| 当第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日) | |
|---|----------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | |
| 税金等調整前四半期純損失() | 388,031 |
| 減価償却費 | 34,402 |
| 有形固定資産除却損 | 1,995 |
| 賞与引当金の増減額(は減少) | 8,550 |
| 退職給付引当金の増減額(は減少) | 5,171 |
| 役員退職慰労引当金の増減額(は減少) | 9,312 |
| 受取利息及び受取配当金 | 62 |
| 支払利息 | 5,971 |
| 売上債権の増減額(は増加) | 435,244 |
| たな卸資産の増減額(は増加) | 185,477 |
| 仕入債務の増減額(は減少) | 422,644 |
| 未収入金の増減額(は増加) | 154,140 |
| その他 | 78,765 |
| 小計 | 357,521 |
| 利息及び配当金の受取額 | 62 |
| 利息の支払額 | 7,698 |
| 法人税等の支払額 | 95,917 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 461,073 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 64,049 |
| その他 | 1,436 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 65,485 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 短期借入金の純増減額(は減少) | 148,897 |
| 長期借入れによる収入 | 780,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | 34,259 |
| 自己株式の取得による支出 | 55 |
| 配当金の支払額 | 13 |
| 少数株主への配当金の支払額 | 1,800 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 594,976 |
| 現金及び現金同等物の増減額(は減少) | 68,418 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 127,790 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 196,208 |

【継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況】

当第1四半期連結会計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

| 当第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日至平成21年3月31日) |
|---|
| 会計処理の原則及び手続の変更 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用 「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成18年7月5日企業会計基準第9号)を当第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。 また、従来、たな卸資産の処分に係る損失については、営業外費用に計上してはりましたが、同基準の適用に伴い、収益性の低下による簿価切下げによって発生する評価損とたな卸資産の処分に係る損失を期間損益計算において同等の損益区分で処理することが適当であると判断し、当第1四半期連結会計期間から売上原価に計上する方法に変更しております。 この結果、従来の方法によった場合に比べて、当第1四半期連結累計期間の売上総損失及び営業損失が232,952千円、経常損失及び税金等調整前四半期純損失が221,681千円それぞれ増加しております。 なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。 |

【簡便な会計処理】

| 当第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日至平成21年3月31日) |
|--|
| 1 棚卸資産の評価方法 当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。 また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。 |
| 2 固定資産の減価償却費の算定方法 減価償却の方法として定率法を採用している資産について、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法等を適用しております。 |

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第1四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

該当事項はありません。

【追加情報】

| 当第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日至平成21年3月31日) |
|--|
| 有形固定資産の耐用年数の変更 平成20年度の法人税法の改正による法定耐用年数の変更に伴い、耐用年数を見直した結果、当第1四半期連結会計期間より主として機械装置の耐用年数を変更しております。 これにより、従来、耐用年数によった場合に比べて、当第1四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失が1,759千円それぞれ増加しております。 |

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

| 当第1四半期連結会計期間末 (平成21年3月31日) | | 前連結会計年度末 (平成20年12月31日) | |
|-------------------------------|------------------------------|---------------------------|------------------------------|
| 1 | 有形固定資産の減価償却累計額 2,047,462千円 | 1 | 有形固定資産の減価償却累計額 2,018,511千円 |
| 2 | 担保資産 担保に供している資産は次のとおりである。 | 2 | 担保資産 担保に供している資産は次のとおりである。 |
| | 預金 5,200千円 | | 預金 5,200千円 |
| | 建物 248,830千円 | | 建物 252,346千円 |
| | 土地 524,385千円 | | 土地 1,217千円 |
| | 計 778,415千円 | | 計 258,763千円 |
| 3 | 受取手形割引高 270,736千円 | 3 | 受取手形割引高 366,403千円 |

(四半期連結損益計算書関係)

第1四半期連結累計期間

| 当第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日) | |
|---|----------|
| 販売費及び一般管理費の主なもの | |
| 役員報酬 | 33,500千円 |
| 従業員給与 | 33,847千円 |
| 賞与引当金繰入額 | 6,081千円 |
| 退職給付費用 | 1,053千円 |
| 役員退職慰労 引当金繰入額 | 9,312千円 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

| 当第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日) | |
|--|-----------|
| 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 | |
| 現金及び預金 | 704,408千円 |
| 預入期間が3か月超の定期預金 | 508,200千円 |
| 現金及び現金同等物 | 196,208千円 |

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計(累計)期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 当第1四半期 連結会計期間末 |
|---------|-------------------|
| 普通株式(株) | 3,510,000 |

2 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 当第1四半期 連結会計期間末 |
|---------|-------------------|
| 普通株式(株) | 341,697 |

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|-------------|------------|-------|
| 平成21年3月27日 定時株主総会 | 普通株式 | 19,012 | 6 | 平成20年12月31日 | 平成21年3月30日 | 利益剰余金 |

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(リース取引関係)

所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間末におけるリース取引残高は前連結会計年度末に比べて著しい変動が認められないため、記載していません。

(有価証券関係)

有価証券は、企業集団の事業の運営において重要なものではありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引を利用していませんので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

| | 鑄造事業 (千円) | エンジニア リング事業 (千円) | 金属加工 事業 (千円) | 計 (千円) | 消去又は全社 (千円) | 連結 (千円) |
|---------------------------|--------------|------------------------|--------------------|-----------|----------------|------------|
| 売上高 | | | | | | |
| (1) 外部顧客に 対する売上高 | 185,776 | 239,832 | 49,044 | 474,652 | | 474,652 |
| (2) セグメント間の内部 売上高又は振替高 | | | | | | |
| 計 | 185,776 | 239,832 | 49,044 | 474,652 | | 474,652 |
| 営業損失 | 218,480 | 153,684 | 24,968 | 397,133 | | 397,133 |

(注) 1 事業区分の方法

製品の種類、性質、製造方法、販売方法等の類似性及び損益集計区分等に照らし、事業区分を行っております。

2 各区分の主な製品

鑄造事業.....半導体製造装置用部品、シームレス鋼管製造用工具等
 エンジニアリング事業.....半導体製造装置関連の精密加工部品、ガラス成型用金型等
 金属加工事業.....電気抵抗材料・特殊溶接棒心線、受託圧延伸線加工等

3 会計処理基準に関する事項の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準の適用)

「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成18年7月5日企業会計基準第9号)を当第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更しております。

この結果、従来の方法によった場合に比べて、営業損失が「鑄造事業」で133,667千円、「エンジニアリング事業」で88,042千円、「金属加工事業」で11,243千円それぞれ増加しております。

【所在地別セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

当第1四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年3月31日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

| 当第1四半期連結会計期間末 (平成21年3月31日) | 前連結会計年度末 (平成20年12月31日) |
|-------------------------------|---------------------------|
| 435.53円 | 557.90円 |

2 1株当たり四半期純利益

| 当第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日) | |
|---|---------|
| 1株当たり四半期純損失 | 115.60円 |

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式がないため記載しておりません。

2 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 当第1四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日) |
|------------------------|---|
| 四半期連結損益計算書上の四半期純損失(千円) | 366,296 |
| 普通株式に係る四半期純損失(千円) | 366,296 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 3,168,564 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 5月14日

新報国製鉄株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 青木 俊人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 芳野 博之

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている新報国製鉄株式会社の平成21年1月1日から平成21年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結累計期間(平成21年1月1日から平成21年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、新報国製鉄株式会社及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が、すべての重要な点において認められなかった。

追記情報

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載されているとおり、会社は、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成18年7月5日 企業会計基準第9号)を当第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)に変更している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。